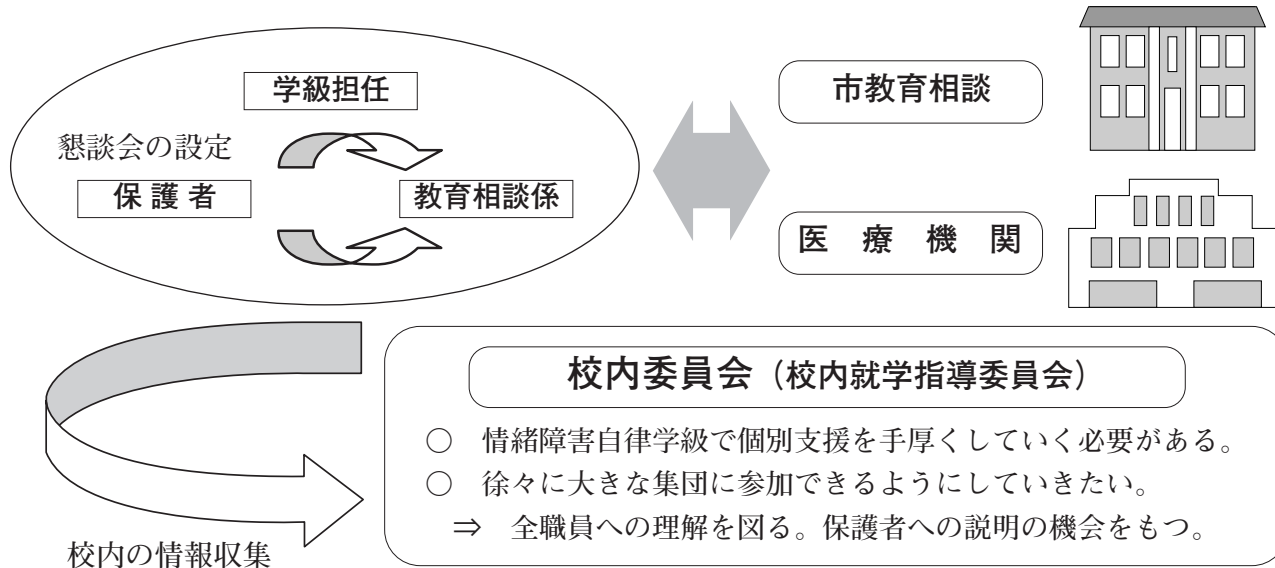


事例 6 授業中、教室にいられなくなったかずきさん (小学校4年)

アスペルガー症候群



かずきさんは4年生のクラス替えの後、授業中に教室にすることができなくなってきました。廊下でボール遊びをしていたり図書館で本を読んだりしています。友だちともうまく遊べないようです。



<支援のポイント>

情緒障害自律学級

- 教師、学級の友だちとの信頼関係を築く。
- 教科学習の支援を行う。
- 少人数での活動を楽しめるようにする。
- ロールプレイなどの活動を取り入れる。

連携

通常の学級

- 学級の子どもたちとの関係が切れないように遊びや活動に誘うことを続ける。



安定するにしたがって…

- ▲新しい場面の前に活動を説明することで
- ▲情障担任が活動の始めに寄り添うことで
- ▲トラブルが生じた後も
ゆっくり説明することで

- 学級の活動に参加できる時間・場所が徐々に増える。
- 児童会・クラブ活動に参加できる。
- 行事に友だちと一緒に参加できる。

不安定になると行動できなくなったりこだわり行動に入ってしまったたりすることは続きましたが、徐々に行動が安定してきました。中学校でも情緒障害自律学級での個別支援を受けながら、自分のペースで学校生活を楽しむことができました。

●教室に入らないかずきさん

授業時間中、教室前の廊下でドッジボールをつかずきさん。担任が声を掛けてもボール遊びを続けます。姿が見えない時は、図書館の書架の陰でお気に入りの本を読んでいます。「テストプリントだと、好んで学習するのになあ…」担任の先生はどう対応したらいいのか困っていました。

友だちとのトラブルの多さも悩みでした。気に入らないことがあると、「悪い人、〇〇、〇〇。ぼくは許さない」と名指しで紙に書いてはり出したり壁に書いたりします。一方的に仲間外しにされたと感じて怒ったり、遊びたくてボールを取ってしまったたりすることが原因だったので、両者が納得いくように説明することが大変でした。

●保護者の了解を得て実態把握と考察へ

3年生のときに転入してきたこともあり、集団行動がとれないことを保護者に伝えても、周囲の友だちを問題にし、かずきさんに目が向きません。教育相談係も加わり何回も懇談がもたれました。学校生活の様子を見に来てもらった時、友だちと一緒にやるように注意する母親を無視し続けたかずきさん。「何とかしたい」と、保護者も諸検査の実施と教育相談を受けることに同意しました。

●安心できる学校生活のもととなる信頼関係を —情緒障害自律学級での指導—

検査・相談の結果、発達全体に大きな遅れは認められないが、他者には他者の心のあり方があることを理解できていないことが分かりました。認知のアンバランス（言語理解・概念化・空間認知が苦手）もありました。医療機関では「アスペルガー症候群」であると診断されました。集団への不適応が強く現れていることから、情緒障害自律学級で学習していくことになりました。

《情緒障害自律学級での4つの課題》

- 1 担任との信頼関係を太く築く。⇒ 「この人の言うことならきいてみよう」という関係
- 2 認知の特性に応じた学習方法で教科学習の理解を支援する。
- 3 少人数の中でコミュニケーションを楽しむ。⇒ 「一緒に活動すると楽しい」という経験
- 4 ロールプレイによりソーシャルスキルを獲得する。⇒ 心地よい人間関係の体験

「きみならどうする」というロールプレイの時間は、登場人物にかずきさんの抱えている問題を重ねて直接的に働き掛けました。5人の学級集団の仲がよく、のびのびとした雰囲気、よいかかわり方を体験する時間となりました。人間関係を築くことに成功する体験は自信になったようです。

かずきさんは5年生になってから急速に行動が安定していきました。国語・算数以外の教科学習は徐々に通常の学級で取り組むようにしました。新しい場面や自分の気持ちがあまく伝えられない場面では、不安定になり行動できなくなったりこだわった行動になったりしてしまうことは続きましたが、ゆっくり説明することで集団の中に戻っていけるようになりました。

中学校は情緒障害自律学級で個別の支援を受け、社会体育の場にも参加するようになりました。現在、かずきさんは高校生。クラブ活動を楽しみながら、高校生活を送っています。

かずきさんへの支援の実際を紹介します。



1 4年ごろの対人関係の問題

かずきさんのコミュニケーション上のトラブルは、「わがまま」「自分勝手」ととらえられやすい面をもっています。トラブルが重なるにつれて自己評価は低くなり、集団への期待感や所属感はどんどん薄れ、集団不適應という形になって現れてきていたと思われます。

かずきさんのトラブルを生じやすくしている認知面の特徴を、次のようにとらえました。

- ① 言語理解・概念化の力に弱さがあり、思いや考えを話し言葉にすることが苦手。
- ② 物事を関係付けて考えることが苦手。
- ③ 「自分の気持ち」「相手の気持ち」に違いがあることの理解が不十分。

特に、③の特徴に気づかずに対応していた周囲に対し、「ぼくの気持ちを知っているのに、その通りに動いてくれない」と考えて怒りだしてしまうのだということが分かってきました。

「ぼくはボールで遊びたい」

周囲の人もぼくがボールで遊びたいことを知っているはずだ。

「いじわるをされた。悪い人だ」

ボールで遊びたいことを知っているのにじゃまをして悪い人だ。

2 具体的な支援の実際

(1) ロールプレイ「きみならどうする」

5人の学級集団で、日常生活場面を取り上げたロールプレイを楽しみながらよりよいコミュニケーション・スキルを使った成功体験をする時間を設定しました。合い言葉は「お互いにもっと気持ちよいやり方はないかな」。

簡単でオールマイティーな「あいさつ」や「ありがとう」といった言葉を使えるようになることから、徐々に相手の行為に応じて自分の気持ちを伝えようと言葉を選ぶような場面へと展開していきました。

具体的で動きのある活動なので、かずきさんは興味をもって取り組んでいました。あいさつや「ありがとう」の言葉を使う場面では、自信をもって演じていました。

しかし、自分だったらどうしようか考える場面では「けんかはいけない。仲良くしないといけない」と観念的なことは言えましたが、具体的にどう言葉を掛けたらいいのか分かりません。「ごめんなさい」と謝ることが精一杯でした。

<授業の流れ>

- ① 教師（と補助者）によるプレイを見る。
- ② 見ていて分かったこと、感じたことを出し合う。
- ③ 自分だったらどうしようか考える。
- ④ 自分の考えたやり方で演じてみる。
- ④' 友だちのプレイを見る。
- ⑤ 感じたことを出し合う。
- ⑥ 別の方法で演じてみる。
- ⑦ ④～⑦くり返し。
- ⑧ 1時間の振り返り。

＜ターゲットにする行為＞

- ① 気持ちよいあいさつ
おはよう、さよなら
 - ② 気持ちを伝える言葉
ありがとう、ごめんなさい、
お願いします
 - ③ 相手との関係の中でお互いに
気持ちよく思いを伝える、遊び
に誘う、誘いを断る、貸しても
らう、友だちを注意する
- 例) 絵をかくことが大好きで絵を
かき始めると夢中になって周囲
が見えなくなってしまう「だい
ちゃん」。休み時間に「一緒に遊
ぼう」と誘いにきた友だちを無
視したことからトラブルになる
場面

しかし、友だちの演技をまねて自分なりに演じるよ
うになると、「うまく言えた」と満足そうな表情を見せ
るようになりました。また、言われた人を演じること
で「嫌な気持ちができる」ことを体験し、言葉にして確
認できました。

- ① 具体的な場にふさわしい言葉遣いを知ったこと
- ② 実際に演じてみて相手の気持ちがあったこと
- ③ トラブルの場面での両者の立場・思いの違いを
聞いて納得できたこと
- ④ うまく乗り切れた自分に満足できたこと

かずきさんにとって考えることが多く、かつ達成感
のある楽しい時間になっていきました。

(2) 少人数で楽しく活動する

好きな活動・得意な活動の中では、気持ちに余裕がもてるようでした。「風船バレー」「三角ベース」など、かずきさんが好きな遊びを情緒障害自律学級の友だちと小集団で楽しみました。具体的な遊び場面で、ボールを「はい」と手渡ししたり「ナイス」「ドンマイ」といった声を掛けたりするようになっていきました。失敗した友だちを責める言葉も聞かれませんでした。

不器用さがあるかずきさんにはやや負荷のかかる調理や小物作りの活動でも、小集団の中では声を掛けたり道具を譲り合ったりすることができるようになっていきました。

(3) 葛藤処理の方法

かずきさんは普段は衝動性の強さを感じさせない子でしたが、トラブルの後で、自分の気持ちの収まりがつかないとその場を飛び出し、攻撃的な言葉を落書きして不満を表していました。

《イライラしたときの約束》

- ① 情緒障害自律学級へ避難してくること。
- ② 個室（カーテンで教室内に仕切りを設けた）の中で自由に過ごしていい。
- ③ 友だちが傷つく言葉ははり出してはいけない。

そこで、左のような約束を決めて繰り返し話ししました。周囲の友だちの理解が深まるとともにかずきさんのかかわり方が上手になり、次第に自律学級への避難は減ってきました。

また、かずきさんが腹を立てた時に書く文字が判読できない線になってしまし

た。読んだ人が傷つかないために、かずきさんが自分なりに工夫した文字なのかもしれません。

かずきさんなりに遊べる友だちが、情緒障害自律学級の友だちから原学級の数名の男子へと広がっていきました。

※ 参考図書：上野一彦編著「きみならどうする」（日本文化科学社）